



## TICAD IV フォローアップ NGO タスク・チーム

事務局：(特活) アフリカ日本協議会  
東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 2F  
電話: +81-3-3834-6902, ファックス: +81-3-3834-6903  
担当: 稲場雅紀(AJF) [masaki.inaba@gmail.com](mailto:masaki.inaba@gmail.com)  
\*電話 (ハボローネ 3月 21-22日): 73240670 (Masaki Inaba)

# ブ レ ス ・ リ リ ー ス

## TICAD はミレニアム開発目標の実現と貧困解消に本気で取り組むべき ＝市民社会、TICAD フォローアップ閣僚会議で主張＝

【3月 22 日ボツワナ共和国ハボローネ市】3月 21-22 日、ボツワナ共和国ハボローネ市で開催されていた「TICAD フォローアップ閣僚会議」は、コミュニケを採択して閉幕しました。TICAD (アフリカ開発会議) は、日本主導のアフリカ開発のための政策フォーラムです。昨年5月に開催された「第4回アフリカ開発会議」(TICAD IV) では、アフリカ開発のための横浜宣言と横浜行動計画が採択され、この進捗状況を評価するための「フォローアップ・メカニズム」が設立されました。今回の会議は、「フォローアップ・メカニズム」の一環として、TICAD IV 後1年の進捗状況を評価するために開催されたものです。

「アフリカと日本の市民社会は、日本政府と TICAD 共同主催者の努力に拍手を惜しみません」会議の閉幕に当たって世界的な NGO ワールド・ビジョンの政策ディレクターであるスー・ムバヤ氏 Sue Mbaya は述べました。「私たちは、TICAD 共同主催者たちが、現在の世界経済危機のアフリカへの影響を最小限に抑えるために多大な努力をしていることを大いに感謝します。実際、日本の麻生太郎・内閣総理大臣は、このフォローアップ会議を踏まえ、4月2日に開催される G20 金融サミットに、日本政府としてアフリカの声をしっかり届ける意思を表明しています。

「しかし、取り組むべき課題も多く残されています」ムバヤ氏は続けます。「TICAD はアフリカ開発のための重要な多国間および二国間のイニシアティブの一つです。そうである以上、TICAD は、『援助効果のためのパリ宣言』などのような、国際的に共有された他の枠組みと連携し、協調した文脈の中に、目標、原則、基準などを位置付ける必要があります。それによって、アフリカの地域機関や市民社会は、TICAD 行動計画の中で、より大きな自己決定権を持つことができます。私たちは、日本が『TICAD IV で行った約束を守る』と決意を示していることに強く勇気づけられています。しかし、日本は TICAD IV で行った約束だけでなく、もっと多くの約束を守る必要があります。たとえば、モンレー国際開発資金会議で誓約された、ODA を GNI の 0.7%まで増額するという目標、2005 年のグレンイーグルズ G8 サミットで採択された援助増額に関するグレンイーグルズ・コミットメント、同じくグレンイーグルズ・サミットと 2006 年のロシア G8 サミットで採択された「2010 年までのエイズ治療・予防・ケアへの普遍的アクセス実現」の目標などです。私たちは、日本政府に対して、これらの目標を実現するためのロードマップを制定するように求めています」

日本の市民社会として TICAD フォローアップ閣僚会議に出席した「TICAD IV フォローアップ NGO タスク・チーム」の稲場雅紀氏も次のように述べます。「『元気なアフリカをめざして』は TICAD のメインスローガンです。しかし、私たちは『元気なアフリカ』だけでなく、ミレニアム開発目標(MDGs)の達成に向けて責任を果たす『元気な日本』を求めます。アフリカ開発は、TICAD が単独で取り組むのではなく、他のイニシアティブと『力を合わせる』ことによるのみ実現できるのです」。

TICAD に関わる政策提言担当者たちは、TICAD 会合で採択されたコミュニケについて、若干の懸念を持っています。4ページにわたるコミュニケの中で、ミレニアム開発目標(MDGs)について触れられた部分は、わずかに1段落に過ぎません。「TICADIV 横浜行動宣言は、MDGs に関連して、保健システム強化やリプロダクティブ・ヘルスに関して、重要な目標を掲げています。しかし、今回の会議で発表された進捗レポートでは、これらの目標について、どの程度の進歩があったかのデータが明らかにされていません。また、これらの目標を達成するためのロードマップもまだ示されていないのです」と稲場氏は述べています。

## TICAD は市民社会に正当な位置づけを

TICAD 閣僚会議において、市民社会は活発に活動しました。会議前日の3月 20 日、アフリカと日本の市民社会は合同して準備会合を開催。3月 21 日には、公式プログラムの一環として市民社会セッションを開催し、盛況に終わりました。最も重要だったのは、今回の会議での市民社会の代表に選出されたスー・ムバヤ氏が、3月 21 日午後に開催された「ミレニアム開発目標の実現」に関するセッションで7分間のスピーチを行ったことです。ウガンダで市民社会として TICAD プロセスとの連携に取り組んでいるフェスタス・カヒグワ氏 Festus Kahiigwa は「これだけ高いレベルの市民社会の参加は珍しいことで、大きな感謝を表明します」と TICAD プロセスへの市民社会の参加のレベルを高く評価します。「TICAD プロセスは、市民社会の参加という観点では、アフリカ開発のイニシアティブの中でもっとも進歩的なものの一つです」

「ならば」とカヒグワ氏は続けます。「TICAD 共同主催者は、市民社会とのパートナーシップの拡大を次の段階まで進めるべきです。市民社会は、『MDGs の達成』という、TICAD で最も重要なアジェンダを実現する上でもっとも重要なパートナーの一つです。そうならば、市民社会は、TICAD IV で設立された『TICAD フォローアップ・メカニズム』の中で正当な公式の位置づけを得る必要があります。また、TICAD 共同主催者は、アフリカと日本の市民社会による政策提言を反映するために、何らかの制度を設けることが必要です」

「南部アフリカ障害者連合」 Southern Africa Federation of the Disabled から、アフリカの周縁化された人々の利益を代表して今回の会議に参加しているアレックス・フィリ氏 Alex Philii は、「アフリカと日本の市民社会は、TICAD プロセスの進捗を独立した立場から評価し、TICAD プロセスを前進させたいという強い意志を持っています」と述べます。「TICAD フォローアップ・メカニズムにおいて公式な地位を得られれば、私たちは、TICAD の目標の達成に向けてもっと大きな役割を果たすことができます」